

2025年度保育所における自己点検・自己評価

こぐま保育園
2026年3月記入

1. 保育理念

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育理念、保育目標を理解し、正しく説明することができる。	◎	特に新入園の家庭には、入園のしおりと一緒にしながら丁寧に伝えている。2月に全クラス懇談会を開催し、日常の保育について共有する時間を持った。
保育園の園目標や方針を保護者に知らせることができている。	◎	入園時に入園のしおりを配布。また、毎年重要事項説明の書面を配布し、熟読してもらったうえで同意書にサイン、提出をしてもらっている。

2. 保育計画

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
保育計画を作成し、見直しを持った保育を実施している。	○	保育所保育指針に基づき、保育課程、年間計画、月指導計画、週日案を作成している。保育計画を利用した保育者同士のねらいの共有など、課題が多い。
年間計画、年間行事の見直しをしている。	○	年度当初から異年齢保育を継続した。2年目に入り、計画や活動が充実してきている。今年度は1歳児までを含んだ異年齢チームの暮らしを検討していたが、子ども集団の様子から、計画を見直した。

3. 人権尊重

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
子ども、保護者、職員の人権が尊重され、大切にされていると感じる。	◎	大人と子どもが対等に立ち、子どもの思いを大切に受けとめ、理解し合って信頼関係を築けるようにしている。ひとりひとりの育ちの状態を把握し、その子の表現したいことを理解する努力をしている。人権に対する学習会を開き学習した。

4. 個人情報保護

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
個人情報の扱いについて入園時等に説明されているか。	◎	園内研修、職員会議等で守秘義務について周知している。また、守秘義務の周知徹底に努めるとともに、個人情報にかかわるものに関しては、鍵のかかる場所に保管している。保育中の写真の管理など、今後改善すべき課題がある。
業務上で知りえた子どもの情報に関する守秘義務について全職員で周知している。	◎	
保護者からの相談の内容の守秘義務について全職員で周知している。	◎	

5. 保育内容

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
それぞれの子どもの姿、全体の様子に気を配っているか。	◎	ひとりひとりの子どもに気を配り丁寧にわかっている。子どもが主体的に動くことを学んでいけるように、配慮し、待つ保育を心がけている。
子どもがのびのびと思いや考えを表現できる保育が行われている。	◎	子ども同士の自然な関わり合いを大切に、子どもの思いを否定するような対応をしていない。その上で伝えたいことを伝えるようにしている。子どもが自分の言葉で表現できるように工夫をしている。
遊びを通して友だちや保育者とのつながりが十分持てるよう配慮されている。	○	必要に応じて、保育者が一緒に体を動かして楽しんだり、子ども同士の活動を見守ったりと、配慮されている。トラブルの対応など対応に悩む場面も多く、後から対応しなおすこともあった。
遊びや生活を通して人間関係が育つような配慮をしている。	◎	ケンカの場面では状況を適切に把握し、双方が十分に思いを出せるように見守ったり思いを聞き出したりして関係の深まりにつながるようにしている。生活を一緒にすることで、異年齢の子どもたちの助け合い姿や、遊びを通じての様々なかかわりが増えている。
身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがされている。	◎	山の自然の中での自由遊びを重視している。また、小野田市内方面の散歩、電車遠足、初詣などで地域の環境に触れ合いを持てるようにしている。羊の出産を試みた。
園の行事や保育の内容が保護者に知らされている。	◎	総会資料、園だより、日報や日々の送迎時の会話、掲示、ブログでの発信、その都度のお知らせなどを通して伝えている。わかりやすく伝える工夫を重ねていく。

6. 保育環境

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
園舎、園庭等が清潔で心地よい空間となっている。	○	園庭が広大なので、遊びに使った後に道具を定位置に責任もって片付けるようにする。羊小屋掃除用の道具などは改善されてきた。
年齢に応じた保育を提供できる環境である。	◎	年齢ごとのクラス分けをし、横の連携もとりながらそのクラスの年齢と発達の状態にあった保育を工夫している。
子どもが安心して過ごせるように保育室が工夫されている。	○	その時々の子どもの発達や活動に合ったものを準備して担任が環境作りをしている。室内環境の工夫は、今後の課題。収納と水回りのリフォームを行い保育室が改善中である。

7. 特別な支援を要する子どもへの対応

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	◎	一人ひとりの発達に配慮した保育計画を立て、全職員でその姿を共有しながら検討して保育に当たっている。また、専門機関や保護者とも必要に応じて連携をとりながら保育に当たっている。

8. 保護者支援

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
意見や要望などへの対応ができている。	◎	送迎時のやり取り、日報、連絡帳、懇談会、園からのお知らせ、アンケート等で意見や要望等を伝えたり把握したりしている。また、苦情対応の窓口も作り、言いにくいことも出しやすい体制を作り、対応、改善に努めている。

職員が、子育て等の話をしやすい雰囲気で見ている。	◎	保護者の思いを理解するように努め、丁寧に対応するように心がけている。
--------------------------	---	------------------------------------

9. 安全対策・健康管理

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
保育中の体調への気配りやケガ等に対して配慮されている。	◎	危険に過敏になりすぎて保育が委縮してしまわないように細心の注意を払いながらも事故の起こらないように配慮し、各マニュアルを設置して周知したり、ヒヤリハット票を書いて共有したりしている。朝の登園時に体調などを確認したり、家庭との連携も心掛けている。
感染症の発生状況や注意事項などが知らされている。	◎	感染症が発生した時には口頭、お便り、掲示等で知らせている。
子どもの成長を把握している。	◎	年二回の健康診断と毎月の身体測定を実施し、その結果を保護者と共有している。
不審者対策を行っている。	○	年三回の不審者対応の避難訓練を実施。訓練を行うたびに、問題点や課題が生まれている。今後の不審者対策の改善につなげていきたい。

10. 給食

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
給食が楽しく食べられるように工夫されている。	◎	見た目を工夫し旬の食材を取り入れるようにしている。また、行事食を愉しみにしたり、3月には卒園を控える年長のリクエストを取り入れて献立を立てている。
食育を通して子どもたちが食に興味を持てるようにしている。	◎	食育計画を立てて見通しを持った食育を行っている。2歳以上児は竈(くど)での調理を自分たちで経験しながら、生の食材に触れたり火を使って食べられるようにすることを知り、みんなで食べる喜びを感じている。食材の原型などにも触れる機会を増やし、食材の下処理なども子どもたちができるように工夫した。
子どものサインを見逃さないようにしている。	◎	給食調理員も一緒に食卓を囲むことによって、それぞれの年齢、発達による食べ方の違い、個別性などを現場と共に実際に把握してもらい、より子どもに合った給食を作ることを心掛けている。
アレルギー除去食への対応。	◎	アレルギーが疑われる子どもは受診してもらって検査を依頼、アレルギーを持つ子どもを把握する。除去食が必要な時には対応。ほかの子どもの食事と間違えないように、お盆を分けたり皿に印をつけたりして間違いを防ぐようにしている。
衛生管理の徹底。	◎	衛生管理マニュアルに基づき徹底している。

11. 地域支援

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
地域との関係が適切に保たれている。	◎	有帆小学校との交流会を持つことができた。
地域との子育て支援や交流。	◎	子育て広場を月2回実施している。

12. 職員育成

小分類	評価	評価の根拠・改善の方法
職員の質の向上に努めている。	◎	各職員の興味や必要に伴った研修に押し出したり、園内研修をもって学んでいる。さらに、園内研修を定期的に持てるように時間を捻出していく。
社会人としてのふるまいを指導している。	◎	正しい言葉遣いや電話対応ができるように、気づいたことは伝え合うようにしている。

園全体の評価

子どもたちひとりひとりが「園の主人公」と実感できる保育を目指す、自分たちの生活を自分たちで作ることを大切にする、豊かな遊び、体験を通して、不思議や憧れの心をいっぱい育てる保育を目指す、今年度もこれらのことを大切にして過ごしてきました。自由に遊びながら様々なものごとを発見してほしい、友だちや大人と対等に関わる中で自分の思いを伝えられるようになってほしい、相手の気持ちを感じられるようになってほしい、心をいっぱい動かして生きる力を培ってほしい。この願いは変わらず、そういう活動ができる環境を作り続けています。しかし大人の願いや子どもに対する希望だけが独り歩きしてしまえば、これらのことは子どもの中に息づくことはない。これからもそのことを忘れず、子どもの姿に学び続けたいと思います。異年齢の生活の取り組みを続け、保護者と共有することで、今まで以上に子どもの発達について悩みや課題を共有することができていたと感じます。一人ひとりの職員の関係作りの日々の努力が積み重なっていると感じます。保育協会では、山陽小野田市内のいろいろな保育所と一緒に学習でき、社会における保育所の役割を確認する良い機会になりました。

来年度の課題

保護者とひとつひとつのことをしっかりと共有し、子どもも大人も一緒に育ち合っていくことを大切にしようと思っています。社会情勢が変化していく中、子どもの育ちを軸にして考え合いながら、さらに信頼関係を深めていきたいと思っています。異年齢保育で育ちあう子どもの姿を、確認しながら、日々の保育実践を重ねていきます。職員間での情報共有、連携を大切にして、今あるすべての環境を大切にしていきます。近年の自然環境の変化と向き合い、山の保全にも努めます。